

## 復活の金曜日の説教

金 大烈 神父 2010年4月9日(金)

### 《食卓は出来るだけ楽しく、喜びを与えるところ》

お元気ですか。

私もおかげさまでこのように元気です。皆様お元気ですか？(最初の問に反応が少なかったので) 元気に返事をして下さい。(はい！)

さあ皆様、毎日食事をちゃんとなさっていますよね。三食きちっと召し上がる方は？(パラパラと手が上がりました) そうじゃない方は食べる物が足りないのでしょうか。(笑い) 朝、昼、晩と三食召し上がる時にご自分はどんな気持でしょうか。愉快地に心楽しく食べていますか。それとも、生きるためにしょうがなく、ただ入れる感じで食べていますか。奥さんの場合はご自分が作らなくては行けませんので、面倒くさく感じているのでしょうか。食べなくては生きることが出来ないからと、そのような話ばかりしながら食べているのでしょうか。まだ子供が小さくて、家を出る前のころの食卓では、何の話が、どんな会話が中心にされたのでしょうか。ほめる話だったのでしょうか。責める話でしょうか。一緒に何かを話し合う雰囲気だったのでしょうか。それとも一方的に上からあれやこれや、お父さんとか、お母さんが、子供達に指図する雰囲気だったのでしょうか。「文句言わないで食べなさい。昔はこれも食べられなかった。何故感謝しないか。」と、このような感じだったのでしょうか。まあ色々あると思いますよ。

今日気がついたのですが、私が何故食卓の話の皆様を申し上げたか、訳を説明します。聖書の中ではイエス様の色々な教え方があったのですが、その主な教え方はいつも食卓でした。何か食べながら何かを話し合う。子供達に、弟子達にどうにか悟らせる。今日も同じですよ。今日も漁をしている弟子達の前に現れて、全て準備なさって、「獲った魚を何匹か持って来なさい」と言われたのでしたね。

結局このミサも食卓です。イエス様ご自身が、“自分の体を私達に食べさせる、それを分かち合う” という食卓ですよ。その食卓が辛いものだったら、面倒くさくなったら、負担になったら、重荷になったら、それは食卓ではありません。そして、いつも食卓で子供達を責める、夫を責めるそのような雰囲気になってしまうと、これも問題です。一緒に食卓についている子供達はどうなるのでしょうか。崩れてしまいます。食卓の主人はご主人ではなくて奥さんですよ。ですから、いつも責められるご主人の立場は辛いですよ。(笑い) 皆様、素直におっしゃって下さい。ご主人の消化機能を麻痺させたことが何回ぐらいあるのでしょうか。(大笑い) 消化機能を麻痺させることは、食べても楽しくないし食べる喜びもないし、これはもう大変な事ですよ。私自身は人一倍気が敏感で、食卓であまり気に入らない話を聞いたらすぐ吐き出してしまいます。それぐらい食卓は大事な所です。そして、それをよくご存知だったイエス様は食卓を選んだわけです。私達がこの人と本当の意味で知り合いた、親しい人だ、といえはその人と少なくとも食事を一緒にする関係でなければ親しいとは言えないでし

よう。

皆様、宣教も同じです。食べることが意味するものは何でしょうか。食べなければ死んでしまうという本能的に求めるものですよね。そういうもの、人間として備えられなかったらいけないことを、一緒に分かち合いましょうということです。結局、宣教もこのようにしなければならぬと思います。一方的に「これをしなさい」とか「これを信じなさい」とかでは、真に手を伸ばすことにはならないと思います。“食卓は出来るだけ楽しく喜びを与えるところ”そのような食卓を作りましょう。もし皆様がそのようになさっていなかったら、深く反省して変えましょう。これからは特に奥さん方は、あれやこれや文句を言わないで下さい。どの家庭でも同じですよ。自分の母も同じでした。普段はいつも黙っていたのに、食卓で父親に「こうなんじゃないでしょうか。」と言うときがありましたね。これからは、皆様、遠くにいる子供達と一緒に、食事する機会を多く作って下さい。また、友達、心配になる友達がいたら食事をする時間を作って下さい。本当に大事なことだと思います。

私達も、消化機能が麻痺させられる気持で、このミサに与かってはいけないと思います。この共同体も、同じ家族として私達は一緒に食事を分かち合う、交わり合う、そのような関わりを作るのが正しいのではないかと今日あらためて深く感じました。

ありがとうございました。